

待望の水俣港改修へ

安全祈願祭と祝賀会開く

水俣港のしんせつ着工の安全祈願祭と祝賀会は六日午前十時半から同港新岸壁で水俣港改修促進期成会主催、水俣市、同商工大会議

所の後援で、大島副知事、田中県議会副議長ら県市の関係者約二百人を招いて挙行、安全祈願の神事のおと、会場を大和屋に移し、田中副知事、大島副知事のあいさつについて橋本市長、尾田市議会議長らの祝辞があつて視察に入つた。

同港の改修は市民の長い間の念願で早期実現が期待されていたが水俣漁協（松田次郎組合長）がしんせつすれば水俣病再発の恐れがあるとして漁業補償を要求、話し合いがまとまらず延び延びになつて来た。その後の話し合いで昨年七月、市と漁協との間で覚え書きが調印され、ついで十二月末になつて県と漁協との間で協定書に調印、ふちややく漁業補償が妥結、着工の運びとなつたもの。

シケのためしんせつ船長門丸、削岩船相模丸の到着が遅れているため、工事は両船の到着を待って着工されるが、本年度の改修工事は三十八年度の繰り越し予算一千七百万円、三十九年度分一千六百万円の計三千三百万円で、とくに早しんせつしの必要があ

る新岸壁前面の航路、泊地など一萬二千平方呎（七萬立方呎）の区域を水深六・五呎にしんせつすることになつてゐる。

なお県ではひきつづき来年度から四十三年度までに総工費三億一千万円で現在百呎の新岸壁を三百呎に延長し四十一万七千立方呎の泥土をしんせつし、五千ト級二隻が接岸できるよう改修する計画を立ててゐる。